

# 形態創生コロキウム原稿執筆要領(案)

1 行あける

〇〇〇〇<sup>1)</sup>, △△△△<sup>2)</sup>

1)某大学工学部建築学科, 助教, 博士(工学), hogeuser@hogedomain.hoge-u.ac.jp

2)某大学生産技術研究所, 教授, 工博

1 行あける

はじめに

ゴシック 10pt

4 図表

図表は、本文で引用した箇所に近い場所に置くようにし、できるだけ原稿末尾にまとめて置くことは避けてください。

表のキャプションは表の上に、図のキャプションは図の下に置いてください。図番号、表番号は通し番号とし、ゴシック体 10pt で書いてください。



図1 図のサンプル

ゴシック 10pt

謝辞：謝辞を書く場合は結論の後に書いてください。

付録 付録の位置

付録を書く場合は参考文献の前に書いてください。

参考文献

- 1) Michell, A.G.M. : The limits of economy of material in frame-structures, Phil. Mag. 8, pp. 589-597, 1904
- 2) 半谷裕彦, 川口健一: 不安定リンク構造の形状決定解析, 日本建築学会構造系論文集, No.381, pp.56- 60, 1987
- 3) Xie, Y.M. and Steven, GP. : Evolutionary Structural Optimization, Springer-Verlag, 1997
- 4) 北野宏明: 遺伝的アルゴリズム, 第1巻, 産業図書, 1993
- 5) 日本建築学会編: 構造形態創生の理論と応用, 応用力学シリーズ8, 2001

この文書は、形態創生コロキウムの原稿の執筆要領について書いたものです。原稿は A4 サイズで、研究論文は 6 ページ、技術報告は 2 ページから 6 ページ以内にまとめてください。上辺および左右辺のマージンを 2cm、下辺のマージンを 3cm とします。ヘッダー、フッターは設けません。本文は 1 行あたりの文字数を (25 文字+2 文字+25 文字) 程度の 2 段組とし、1 ページあたり 42 行 (行間約 16.5pt) 程度で作成してください。また文字サイズは明朝体 10pt を用いてください。言語は日本語もしくは英語を用いてください。

左マージン 2.0cm

右マージン 2.0cm

2 レイアウトとフォント

ゴシック 10pt

2.1 タイトル部分

ゴシック 10pt

タイトルは 1 ページ、1 行目にゴシック体 12pt で、センタリングして記入してください。1 行あけて著者名を明朝体 10pt で、センタリングして記入します。著者が複数の場合は、例のように肩カッコ付き数字を付けてください。次の行に、著者の所属機関、職位、学位、不都合がなければ Email アドレスを明朝体 10pt (欧文 Times,10pt) で、センタリングして記入してください。

2.2 本文部分

著者の後、1 行あけて本文に移ります。(25 文字+2 文字+25 文字) 程度の 2 段組としてください。章の見出しはゴシック体 10pt とし、文章は日本語は明朝体 10pt、欧文は Times, 10pt を用いて下さい。各章の間は 1 行あけてください。

1 行あける

3 数式および数学記号

数式はセンタリングし、式番号はカッコ付の通し番号で右詰としてください。

$$\int_V \sigma_{ij} \delta e_{ij} dV = \int_V f_i \delta u_i dV + \int_S T_i \delta u_i dS \quad (1)$$

数式のフォントやサイズ、行間は特に指定しません。見やすいように自由に調節してください。